

令和5年度 第2回やまなしプラスチックスマート連絡協議会

【日時】

令和6年2月9日（金曜日） 14時00分～15時30分

【場所】

山梨県立図書館 イベントスペース東面（甲府市北口2-8-1）

【内容】

15名の委員（オンライン出席を含む）が参加し、各団体におけるプラスチック対策の情報共有及び協議会の今後の方向性について、以下のとおり意見を交わしました。

1. 協議会団体等の事業・成果報告

○山梨マイクロプラスチック削減プロジェクト

「人工芝調査の結果と徐放性肥料について」

- ・県内のスポーツ用総合施設で人工芝がどのように流出しているのかを調査した
- ・人工芝の流出防止対策で防止できるのは90パーセント程度。もともとの排出量が多いので、10%でもかなりの人工芝が流出している
- ・人工芝調査のアンケートを県内市町村に実施したところ、19市町村から回答があり、そのうち人工芝を導入している施設があるのは13市町村であった
- ・人工芝の流出防止を行っているのは4施設のみ
- ・公益財団法人日本スポーツ施設協会や大阪府が人工芝施設のガイドラインを作成している
- ・徐放性肥料については農水省で啓発はしているが、一般の方は知らないことが多いのが現状である

○海と日本プロジェクト in やまなし実行委員会

「山梨県トラック協会と連携した取組及びスポごみ大会について」

- ・山梨県トラック協会会員企業にアンケートを実施し、県内のごみスポットマップを作成した
- ・アンケート結果では、交通量が多い幹線道路、人影の少ない山間部の道路、比較的スピードが出るような道路や路側帯、旧道や駐車スペースなどにごみが多く捨てられていることがわかった
- ・アンケート結果から一番ごみが多いとされた国道52号の甲西バイパスでアクションを展開した
- ・JA南アルプス市の協力を得て、白根農産物直売所にのぼり旗や回収額を設置し、観光客の目を引くような形で、啓発を進めた
- ・山梨県トラック協会にステッカーを1500枚配布し、トラックの後ろなどへの貼付を依頼した
- ・9月末にトラック協会が主催したイベントで特別ブースを設置し、啓発を図った
- ・その他に、山梨で初となるスポーツごみ拾い大会を3大会開催した

○山梨環境カウンセラー協会

「廃プラスチック容器を活用した雨水利用について」

- ・雨水を貯めて活用することで、環境に優しく、災害に強い街づくりにつながる
- ・雨水を使うメリットとして、災害で水道水が使えない時、貴重な生活用水になる事などが挙げられる
- ・甲府市環境リサイクルフェア（2019.11.23）でワインの廃樽を活用した雨水利用タンクの制作、啓発、頒布活動を行った。また、北杜市子ども環境フェスタでは、廃樽の雨水タンク展示し、参加した親子に体験学習を行うと共に、普及啓発を行った
- ・雨水利用の啓発活動は平成18年から始めており、320個以上のワインの廃樽を活用した

○認定 NPO 法人日本釣り環境保全連盟

「SDG s まなび館について」

- ・SDG s まなび館が3月22日に富士河口湖町大石でオープンする
- ・SDG s まなび館は、SDG s の17項目を学ぶことができるまなび館と、生分解性ルアー研究所の2棟で成り立っている
- ・まなび館は、少し学び、地球を守り、未来へ進むをコンセプトに、SDG s を子供から大人まで楽しく学ぶことができ、普段できない体験などが多数揃っているところで、いつでも楽しめる館内展示と、事前申し込みが必要な体験講演に分かれている
- ・生分解性ルアーに使用している素材は、使い捨てのフォークやスプーン、プランターなど多様な市場に流用できる未来性の高いものである
- ・山梨県内の指定された施設で宿泊・食事などをした当日のレシートを持参すると、入場料が半額になる普及啓発活動に繋がることと、山梨県内を回遊して欲しいという思いから観光も含めて取り組んでいる

【構成団体からのご意見】

「人工芝調査の結果と徐放性肥料について」

- 徐放性肥料の性質を考慮すると、水田関係での利用が多いと推測されます。山梨県の場合、水田の規模がかなり小さいので、他県と比較して徐放性肥料は大量に使われていないと思いますが、報告いただいたようにかなりの量が河川に流れているということであれば、使用状況の確認等は今後実施する必要があるのかと思います。
- マイクロプラスチックに関しては大きな問題があればプラスチック自体を禁止するという事になると思います。現在はその実態もはっきりせず、影響の方もこれから明らかになっていくという中で、非常に難しい問題です。わからないからそれでいいという問題でもないので、本協議会で情報共有していくことの大切さを感じました。

「山梨県トラック協会と連携した取組及びスポごみ大会について」

- スポごみ大会について、他県を見ていると、自治体単位で実施するところも非常に多いので、このスポゴミという取組は、もしかしたら来年度以降、さらに大きな輪になるのかなと思っています。

「廃プラスチック容器を活用した雨水利用について」

- 廃プラスチック容器を利用し、また雨水利用もしていくということで良い取組みだと思います。

2. 協議会の今後の方向性について

第1回連絡協議会で、委員からこの協議会で県民に向けてプラスチックごみ対策を発信していきたい。この協議会をもっと県民に開かれた会にしていきたい」という意見がありましたので、事務局として、協議会の今後の方向性について検討した。

【今後の協議会の方向性】

- プラスチック対策の推進に向けた取組の案や解決すべき課題について、各構成団体の知見を基に活発に協議する場として運営していく
- 事務局は、構成団体間の協議や共同的な活動の円滑化を図るため、構成団体のサポート及びコーディネートに取り組む
- 団体間の連携強化を図るため、各団体に取り組むプラスチック対策の年間スケジュールや取組内容、担当者の連絡先等をまとめた一覧表を作成したい

【構成団体からのご意見】

- 今日各団体に報告いただいた活動内容を県民に発信したいと感じました。これからの方向性としては事務局の説明の通りだと思いますので、これまでとはまた一歩違った協議会の議論が生まれてくることを期待しています。
- 私達の団体はメディアとしての立場もありますので、皆さんのプラスチック削減に向けた色々な取り組みを、県民に広げていくという使命があります。この協議会でそういう情報をいただきながら、県民に普及する活動で協力していきたいと思います。
- この協議会は知識と力のある団体が多いので、これから先はぜひ力を合わせて社会発信していきたい。それぞれの団体の得意分野で連携していけたらいいなと思っています。事務局が示した方向性を支持したいと思っています。
- 連絡協議会ということですので、相互の活動についてより理解を深めていき、協議会で得た情報を持ち帰るなかで、それぞれの団体に取り組むということを基本としつつ、この場で新しい連携や、発信するものが生まれることも期待していくと考えていけばいいのではないかと思います。